

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794300026		
法人名	株式会社 ビバック		
事業所名	グループホーム 浪速さくらんぼ(2階)		
所在地	大阪市浪速区塩草2丁目3番地21号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年3月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念である『信頼・感謝・真心』を基本に入居者様お一人おひとりが地域社会や職員となじみの関係を築き、安心・安全な生活を送れるよう支援している。  
 ・地域の盆踊り、運動会や遠足など四季を実感し楽しんでいただけるよう支援している。  
 ・入居者様のできる力を大切に、その人らしく達成感のある生活を送っていただけるよう職員はさり気なく支援している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の場所は、JR環状線芦原橋の北東すぐで、4階建てのビルの2階、3階を使って、2ユニットで運営しており、4階には同グループの小規模多機能型居宅介護事業所が経営されている。この「浪速さくらんぼ」の母体は、株式会社 ビバックで、介護関係の事業のほかに、高齢者向け賃貸マンションの建設・運営などの不動産事業、医療事業、介護学院の経営などを行っている。この事業所の経営理念は、「信頼、感謝、真心」である。職員は、常に感謝の気持ちを持って、信頼される介護を真心から提供することを旨として頑張っている。また、地域の住民との交流も大切にしている。地域行事には、積極的に参加し、地域に溶け込み、深い絆をもととする意欲と姿勢がうかがえる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である『信頼・感謝・真心』を基本に管理者・計画作成者・職員ともに支援している。理念を各階に掲示し利用者一人ひとりが安心・安全な生活が送れるよう職員間で理念を共有し取り組んでいる。	事業所理念を、建物の玄関とユニットのある2階と3階に掲示し、職員は、サービスの意義を常に確認しながら介護を実践している。あわせて、社是の「思いやり、心からのおもてなし、目配り、心配り」を胸に、サービスの提供に邁進している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、回覧板も回していただいている。地域の盆踊りや運動会、月1回の朝の清掃に参加し地域の方々に事業所の利用者・管理者・職員の顔を知って覚えていただけるよう努めている。地域の方より『お雛様』を頂いた。	地元の町会に加入し、町民運動会、盆踊りなど地域の行事や、公園清掃の奉仕活動に参加している。また、ふれ合い喫茶「いこいの家」も訪問し、お互いが顔見知りとなり、グループホームについての理解が得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の清掃に参加させていただいている。市職員より災害時の障害者避難所として施設登録の依頼あり申請中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者・ご家族・地域の連合会長・連合女性部長・町会長・民生委員・推進員・地域包括支援センター職員に参加していただいている。写真を写しながらホームの取り組みを説明しアドバイスをいただいている。	メンバーは地元関係者5名を加えた10名で、会議は2ヶ月に1回開催している。その内容は、主としてホームの運用状況を説明し、質疑と意見が交わされているが、ホームの運営についてアドバイスが出されることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員へ質問などあれば市役所への電話や訪問にてお聞きしアドバイス等を頂いている。浪速区施設連絡会に参加しており地域包括支援センター職員の参加協力関係が築けるよう努めている。	市の担当者とは連絡を密にすることを心がけている。運営上の疑問などがあれば、訪問や電話で尋ね、アドバイスをもらっている。また、浪速区施設連絡会に参加し、地域包括支援センター職員との協力関係も築けるように努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し事業所内研修を実施している。玄関は手動にて開閉できるようにしている。各フロアはご家族様希望等もあり施錠しているが今後検討予定である。	身体拘束に関するマニュアルを作り、それを使っての職員研修の実施により、職員は身体拘束の弊害をよく理解している。現在、両ユニットとも、出入り口のドアは施錠している。	建物の構造として、居間からユニットの出入り口が見え難いので、利用者の見守りが難しいことに問題があるが、利用者の不安と混乱を排除するために、開錠する工夫が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴、更衣時など身体のチェックや健康状態を常に観察している。また、職員へ高齢者虐待についても研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関に『大阪市成年後見支援センター』リーフレットを置き啓蒙している。事業所内研修を実施し、必要時は支援できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申込み時から不安・疑問に丁寧に説明し、契約時解約時にも十分な説明を行い、理解・納得を得ている。重要事項・運営規定・利用契約書などはいつでも閲覧できるよう玄関に常置している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等の訪問時や電話、アンケートの実施により意見、要望をお聞きし運営に反映している。運営推進会議においても意見をお聞きしている。	家族の訪問時には必ず話し合いの機会を持ち、遠方の方には電話か手紙で現状報告と意向を聞いている。家族全員を対象にアンケートも行い、改めて意向を聞き、いただいた要望などは、実現に努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日3回の申し送り、日頃より職員の意見や提案を聞く機会を多くもっている。月1回の職員会議や週1度の運営会議にて職員の意見や提案を話し合い、運営に反映させている。	毎日の申し送りの際のほか、毎日の仕事の中で職員の意見等を聞く機会を多く持っている。月1回の職員会議や週1回の運営会議で、聞いた内容を協議し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、月1回本社会議に出席し職員個々の努力や実績、勤務状況等を報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの知識・能力に合わせた指導方法で育成に努めている。ホーム内外の研修を受ける機会の確保や資格取得できるようシフト調整に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浪速区施設連絡会の集まりに定期的に参加し、取り組みや情報交換などを行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談の頃からアセスメントを行い、情報収集をしている。入居者に寄り添い、思いや不安な気持ちを傾聴しながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の頃からアセスメントを行い、ご家族等の思いや不安な気持ちを傾聴し信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを限定せずに入居者、ご家族等から情報収集を行った上で必要なサービスを支援している。必要に応じて他のサービスの紹介や説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備や掃除、買い物、いろいろな行事などを共に過ごしコミュニケーションを密にとり、できる力や役割を見極め職員と支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子等をご家族等へ報告したり、行事などにて共に過ごす時間が持てるよう働きかけている。毎月の『さくらんぼだより』へ日常の様子や行事案内など報告を行い運営推進会議へも参加いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。居室には、なじみの家具やインテリアなどで環境を整えて頂くようご家族等に伝えている。	入居時のアセスメントやその後の会話の中から、馴染みの人や場所を把握し希望を叶えるようにしている。職員の付き添いで墓参り、知人への電話の介助、手紙の代筆、懐かしい食堂、美容院へ行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席やソファなど座る場所を考慮し、交流が深まるよう支援している。利用者同士が良好な関係が築けコミュニケーションが図れるよう日常の会話やレクリエーションを通じ職員はさりげなく心配りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院されておられる方にはお見舞いに伺ったりしている。必要に応じて関わりを持ち相談等に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やコミュニケーションから入居者の希望や意向の確認、把握に努めている。困難な場合は、行動や表情を観察し希望などを望んでおられるかを考え話し合っている。	入居までの暮らし方についての情報を把握し、現在の思いについては、発言やしぐさにより判断理解をして、望みの実現できるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの嗜好、なじみの暮らし方など本人、ご家族様からお聞きしている。入居前にご家族様にアセスメントシートをお渡しし記載して頂いている。職員間でカンファレンス等を通して情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から入居者一人ひとりの心身状態や出来る事、出来ない事の把握に努めどのように過ごしたいかや現状に必要な支援を見極め送りや月1回の会議にて話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日々の生活を観察し、入居者、ご家族等の意向をお聞きし月1回モニタリングの実施カンファレンスを通して職員全員で検討し現状に即した介護計画の作成に努めている。	3ヶ月毎に介護計画の見直しをするのを原則としているが、日々の生活を観察し、本人・家族の意向も聞いた上で、月に1回は利用者全員のモニタリングを行い、全職員のカンファレンスで検討し、必要があれば原状に即した新しい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中での変化や気づきをその時点で記録し1日3回送り職員間で共有している。カンファレンスにて必要時アセスメントに記入し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護を併設しており一緒に行事を開催している。同法人の主任介護支援専門員にもアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りや運動会、公園への遠足、ふれあい喫茶など楽しんで頂いている。また、ホームの行事にも地域のボランティアの方々も参加していただき季節毎に喜んで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族等のご希望によりかかりつけ医の受診や往診を支援している。歯科医の往診も希望に応じて対応している。	利用者本人・家族の意向を第一とし、従来からのかかりつけ医の診療を希望する場合は、それを支援し、全体として適切な医療を受けられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務し入居者の適切な受診、日常健康管理や職員の指導にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう病院関係者との関係づくりに努めている。管理者、職員ともに早期退院できホームでの生活に戻れるように病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針も説明し同意を得ている。事業所のできることでできないことを十分に説明し方針をご家族、主治医、職員と共有し支援している。入居者、ご家族等と話し合い最後までその人らしく生活していただけるような支援に取り組んでいる。	入居時、利用者が重度化した場合の看取りについて、ホームでできることとできないことを示し、利用者・家族が納得された上で看取り介護計画を作成している。また、状況の変化に応じ、同意を得たうえで計画内容を変更している。過去2年間で、看取りを実施したのは一例である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し職員への勉強会を実施している。消防署にご協力いただき救急救命の講習会を実施した。緊急時対応手順を整備し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。運営推進会議にて議題にあげご協力をお願いしている。避難方法などご意見をいただいた。	年2回、消防訓練を中心に実施している。夜間の地震、津波対応の避難訓練がされていないが地域の方々に呼びかけ、避難方法のご意見を頂き検討されている。	夜間に職員が1人の状態で災害が発生したとき、どんな対応ができるかを皆で検討し、災害ごとのマニュアルを作成して、地元と共に、それに沿った訓練をすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた分かりやすいゆっくりとした言葉かけなど個々に対応している。入浴時、排泄時などプライバシーに配慮し支援している。	利用者への言葉使い、態度に、尊厳を傷つけない気配りをしている。また、トイレ、入浴などの介助に当たっては、羞恥心をおこさないような配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が安心、落ち着ける雰囲気づくりや日々のコミュニケーションから信頼関係を築けるよう努めている。自己決定ができるよう一人ひとりに合わせた働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースでお好きにすごしていただけるようさりげなく支援している。希望や意向を確認し、実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時など入居者の希望をお聞きしながら支援をしている。理美容は、入居者のご希望に応じ対応している。訪問理容も希望に応じてカットや毛染めなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事準備、片付けなど入居者の体調や力に合わせて職員と一緒にしている。入居者に食べたいものをお聴きし共に調理、楽しんでいただいている。遠足時には外食も楽しまれている。	おかずは配食業者に依頼し、ご飯と汁物はホームで作っている。利用者は、それぞれの能力に応じて調理・配膳などを職員と共同で楽しく行なっている。職員も一緒に食べながら、楽しい雰囲気を作り出すことに気配りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録や必要に応じ水分量の記録をしている。ゼリーなどを作ったり一人ひとりの状態に合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助など一人ひとりに合わせた支援を行っている。歯科医師の往診を職員が立ち会い連携して健康な口腔内の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくおむつの使用を減らすよう排泄チェック表にてパターンを把握しトイレ誘導や声掛けなど自立にむけた支援を行っている。	各利用者の排泄パターンを把握し、夜間をふくめ、適時にトイレ誘導をして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の良くなるおやつや水分摂取の寒天ゼリーと入居者一人ひとりに応じて提供している。体操や散歩などの運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴、機械浴など個々に応じて入浴していただいている。入居者からの希望にはできるだけ対応し入浴剤をいれたり楽しんで頂いている。	基本的には週に3回、14時半から16時半頃に入浴を介助しているが、希望があれば、柔軟に対応している。体調などの状況により、清拭・シャワー、足浴の場合もある。入浴剤を入れて、楽しんで貰うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時のホットミルクなど提供している。居室やリビングのソファなどに座ったり横になったり自由にくつろいでいただいている。眠れないときはホットミルクを飲んでいただいたり足浴など気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の主治医往診時に薬剤師、職員が立ち会い薬の目的や副作用など細かくお聞きし把握・理解に努めている。職員間の連絡帳など記入し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴などから楽しみや嗜好品の把握に努めている。他の人からの感謝の言葉ややりがい、達成感を感じて日々過ごして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望にて個別にお寺など外出を支援している。地域の運動会、盆踊り、ふれあい喫茶など地域の方々のご協力のもと楽しんでいただいている。日常の買い物や散歩などの外出も支援している。	利用者の希望により、買い物、建物の周辺の散歩などの他、地域の運動会、お寺、「ふれあい喫茶」などにも足を伸ばし、できるだけ外気に触れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて、ご希望があれば所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からご希望があった場合は電話しご家族等とお話して頂けるように支援している。年賀状や手紙を出す時は職員と一緒にポストまで出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングなど季節を感じられるような飾りつけをしている。その日の気温などに応じて窓を開けたり温度調節をしている。夏にはプランターでトマトやきゅうりを植え水やりや収穫も楽しんでいただいた。	玄関や居間には、利用者の作品の絵や書や季節の花が飾られ、壁には手作りの大きな桜の貼り絵、手作りカレンダーなどが飾られ、天井にも、手作りの可愛い飾りが吊り下げられていて、居間は一足先に春の到来を感じさせ、明るく楽しい雰囲気満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士お話ができるように席を配置したりソファに座って落ちついてお話し頂けるよう配慮している。入居者同士の居室への行き来もされたりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ使い慣れた家具やインテリアを持ち込んでいただけるようご家族にお願いしている。ホームでの写真などをかざり居心地良くすごしていただけるよう努めている。	居間は明るく清潔で、使い慣れた家具の上に懐かしい写真や装飾品が配置されており、安心してゆったり過ごせる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに必要な手すりの設置やわかりやすい表示に努めている。できる事を大切に自立した生活が送れるよう職員は見守りさげない支援に努めている。		